

教育目標		本校の特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。				総合評価	
運営方針		基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台に、コミュニケーション力、自己表現力を持った人材を育成する。 県下唯一の芸術科を有する学校として、「誇り」と「自覚」を持ち、常にアピールとチャレンジを続ける学校を目指す。 教職員全てが学校運営を担う意識を持ち、常に一步先を読み、前向きで自発的に企画・運営に当たる学校を目指す。					
平成22年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標			
授業評価や学校評価を生かしながら、学力の向上やコミュニケーション力の伸張に努め、成果を上げつつある。また、広報や組織的対応にも一定の成果がみられた。他方、生徒のマナーや規範意識に課題が残された面もあり、他者を思いやるなど豊かな人間性をより育成していきたい。		基礎学力の定着と学習意欲の向上		積極的な授業公開を進め、わかる授業に取り組み、社会の変化に対応できる学力の向上を図る。			
		規範意識の醸成とコミュニケーション力の育成		一人ひとりの生徒理解に努め、はじめある生活態度や他者を気遣う心を育成すると共に、自立心や社会の一員としての自覚を深めさせる。			
		自己理解と主体的な進路実現		キャリア教育に積極的に取り組み、生徒自身が主体的に進路選択できるよう計画的・組織的な指導を進める。			
		中・長期計画の策定と実現		本校の将来を見据えた教育課程・人材確保、育成・設備・広報等の確立を目指す。			
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
企画	学校行事等の円滑化	各部、グループ、学年との連携・調整を積極的に行い、学校行事の円滑化を図る。	B	B	各科と連携して行事を行えたが、もっと積極的に本校行事を外に向けて発信することが必要である。	「本校の活躍を知るとうれい」との意見が出され、「高円展」や「ミュージカル」など外部で開く活動に評価をいただいた。	
	授業評価の積極的活用	各学期終了後、迅速に各教員へ配布する。その後2週間以内にレポート提出し、フィードバックを的確に行う。	B		1学期は予定通り配布できた。教務Gと連携して一層の活用を図る。	具体的な方策の維持と活用の徹底	
	広報活動の充実	新聞や各種メディア等を活用した広報活動と中学校、学習塾への情報提供を一層進める。年間3つ以上の高円高校の進化、発展を目指した企画、アイデアの提案を行う。	B		①学校紹介パンフレット3000部作成した。 ②学校説明会参加中学生は昨年度より1割増えた。 ③山添中、天理北中、三笠中、「明光義塾」「中部教育研究会」「奈良県進学博」へ参加する。	積極的な広報活動を継続する。 アピールポイントの検討	
教務	学力向上のための授業時間確保と授業の改善・充実	年休・出張等による自習時間がゼロになるよう努める。継続して授業公開を全教科で実施する。 新学習指導要領に基づく教育課程表の素案を年内に作成し、教育課程委員会にて検討を重ねる。	B B	B	授業公開はほぼすべての教科で実施することができたが、2学期後半多くの自習がでってしまった。 数学・理科の先行実施についてはスムーズに決定した。	事前の課題作成を依頼する。 25年度入学生の素案を作成する。	家庭学習の不足を指摘する意見があった。教科等での工夫が一層必要である。
	総務	教職員全てが学校経営を担う意識の向上	会議、板書、掲示、書類配布等での連絡事項の徹底に努めるなど、全職員で情報の共有化を図る。		A	B	具体的な方策によっておおむね達成できた。
儀式での集中力の向上		担任、副担任による列内指導や授業での適切なはじめある指導をおとし、集会等で私語が一切聞かれない状態にする。	A	95パーセント達成できてきた。集会あるごとに目標『私語0』を伝えたこと。授業での適切な指導があった。	年度当初から生徒に目標を伝え、自覚させる。		
保護者との意志疎通の向上		育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率20%を目指す。	C	生徒に託送すると、保護者に届いていないものもある。	緊急連絡メールの活用。行事の組み合わせを考慮。		
情報システム	名簿システムをはじめとする情報インフラを完成させる。	各システムの情報整理と不具合の改善を行い、各システム同士の安定したリレーションを実現する。評価指標は次のとおり。 A:システム不具合が改善され、正常に稼働する。 B:システム設計及び作り込みが完了する。 C:調査研究を行う。	A	A	・リリース更新によって、サーバ、クライアントをはじめ、学校ネットワーク全体を整理、再構築した。共有フォルダにおけるシステム同士の不具合は解消したと考えている。 ・配備されたPCを各人が気持ちよく活用できる環境整備が当面の目標である。	・皆さんから意見を聴取し、実現できるように構造改革、連絡調整に努める。	情報モラルの指導に力を入れてほしいとの意見をいただいた。
学習進路・キャリア教育	生徒の自発的な学習の啓発と主体的な進路実現の支援	・進路ガイドブックの充実や進路インフォメーションの発行等による生徒及び保護者への啓発に努める。(学期3回の発行) ・進路ガイダンスや大学見学会等の進路関係行事の改善と工夫を進め、効果的な実施をする。	A	A	・新規プロジェクトの「学習合宿」が実施できた。 ・進路ガイドブックの工夫(合格体験記のマンガ表現の増)。より親しみやすい工夫をした。 ・進路インフォメーションの発行(毎月発行を目標) ・ガイダンスや大学見学会の改善と工夫(3年1学期にガイダンスを実施。大学見学会「京都橋大・関西外大」を追加して実施。	・学習合宿の継続実施と改善 ・進路ガイドブックの改善工夫 ・進路インフォメーションの改善工夫 ・各行事の改善工夫	キャリア教育について、地域の人材や施設の活用など、積極的な意見を多くいただいた。今後を生かしていきたい。
	本校におけるキャリア教育の構築と推進	・教員対象のキャリア教育研修会を実施し、理解と啓発に努める。(年1回) ・生徒向けのキャリア教育ホームルームの工夫と改善を行う。	A		・新規プロジェクト「保護者対象の仕事に関するアンケート」が実施できた。 ・同志社大浦坂教授による教員向け研修会を実施した。 ・(株)イニシアティブ・パートナーズ川口氏によるキャリアガイダンスを1年生で実施した。 ・キャリア教育HRを2年生で実施した。	・仕事のアンケートの冊子のキャリア教育での活用の工夫 ・教員向け研修会の工夫と充実 ・キャリア教育関連行事の改善工夫	

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・挨拶の徹底や遅刻の防止に努め、正しい言葉遣いの指導にも積極的に取り組む。特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。同時にカッターシャツ、ブラウスの第一ボタンを締めさせる。	B	B	・挨拶は概ねできている。遅刻も減少はしているものの目標にしていた8:30に全生徒が昇降口を通過させることはできなかった。 ・第1ボタンを締めている生徒は増えた。 ・携帯電話指導の成果が上がらなかった。	・来年度も引き続き目標にする。 ・一斉登校指導の実施	マナーやモラルの指導について、粘り強い取組を望む声がだされた。社会人として通用する人間づくりの必要性についても意見をいただいた。
	日常生活におけるマナー・モラルの周知徹底	・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図り、外部からの苦情等を少なくする。(昨年度の3割減を目標とする)	B		公共交通機関や自転車でのマナー・モラルの悪さで苦情をいただいている。生徒たちに周知徹底が必要。	全校集会等を実施して改善していきたい。	
環境・安全	校内美化の徹底と安全面の強化	・校内および校外美化活動を学期に1回実施する。 ・避難訓練を通じ安全面の意識の向上を図る。 ・美化委員会を学期に1回以上実施し、校内美化に努める。	A	A	美化委員・ボランティア生徒等多くの参加が見られた。避難・通報・消火訓練の実施で安全面の意識向上を図った。美化・ストープ委員会を定期的に行い校内、校外の美化活動やストープの管理、給油を円滑に行った。	火災に対する避難訓練だけでなく、地震等の災害に対しての取り組みが必要である。	安全な帰宅方法・経路について確認の必要がある、との意見をいただいた。
文化体育	生徒の自主的・自発的な活動の推進	・部活動や生徒会活動を中心に、通常の活動以外に学校生活や行事、地域などに向けてより一層の貢献を行えないか考え計画させ、実行を促す。(生徒会・全ての部活動での実行を目指す)	A		・雨天時、運動部でトレーニングをかねて校舎内の美化活動に取り組む姿が見られるようになった。 ・校外美化活動へクラブ活動単位での参加がみられるようになった。	生徒会と部活動の連携や、生徒会の広報活動の活性化などをすすめる、個々の活動のつながりと広がりをする方策を検討する。	部員による奉仕活動に評価をいただいた。部活動等とおしての人間関係づくりや社会性を身につけさせることに期待が寄せられた。
	部活動の活性化	・各部活動からの活動報告を定着させ、これにもとづいた広報紙の作成などを行う。(月1回) ・昇降口両側のボードを活用して、部活動への関心を高める。	B	B	・時期によって広報誌の発行頻度は異なるが、各クラブからの報告に基づいた作成を行った。平均すれば、月1回発行の目標をおおむね満足していると考えられる。		
	図書館運営の活性化	・クラス文庫用の図書を充実するとともに、クラスへの利用を積極的に働きかける。	B		・クラス文庫の利用もあったが、教科での図書館利用が複数あり、そちらに重点を移す必要があると思われる。	・教科に必要な図書の充実と、教科との連携等に努める。	
健康教育	自己の適切な健康管理の徹底と健康問題の早期発見	・生徒保健委員会を月1回実施し、啓発に努める。 ・保健室と職員との連携を密にし、情報を共有化することで、安定した生徒集団づくりにつなげる。	A		・生徒保健委員会を月1回以上実施でき、保健委員の意識も向上した。 ・職員室の黒板に、毎日の来室状況を記録することで、保健室の状況を、知ってもらうことができた。	・各種検診の受診方法などを、再検討したい。 ・自分の体を自己管理できる生育のために、保健委員会を活性化させる。	人間関係をうまく築けない人が増加しており、その対策としてのピアクラブ活動等が期待される。
	教育相談の定着	・ピア・クラブ委員会を月1回実施する。 ・ピア・マネージャー会議を月1回実施する。 ・「健康・美化」通信を月1回発行する。	B	B	・ピア・クラブ委員会や、マネージャー会議を月1回実施できたが、内容については、さらに精選する必要がある。 ・健康美化通信は、毎月発行できた。 ・食育をピア・マネージャー会議と連動させる。	・特別支援の必要な生徒との連携をさらに密にする。 ・運動部員の朝食調べを継続して実施。	
人権教育	部落問題をはじめとするあらゆる人権問題に対する意識の向上を図る。	・現地研修及びハルツァーゴテル(重症心身障害児施設)での研修を通して、人権問題に対する意識の向上を図る。(年3回の交流の実施) ・人権HRの実施、奈良養護学校・ハルツァーゴテルとの交流を通して、生徒の人権意識の向上をはかる。(年4回の交流の実施)	B	B	・部落問題にかかわる現地研修を実施し、現地の方よ結婚差別にかかわる講演をいただき、部落問題に対する意識の向上を図ることができた。 ・奈良養護学校及びハルツァーゴテルとの交流を行い、交流委員が交流を楽しむ様子が見られ、一定の成果を得ることができたと思われる。	・次年度もこのような研修を継続したい。 奈良養護との交流については、他の行事との関係から日程を考える必要がある。	交流活動の継続発展が希望された。
第1学年	規則正しい生活習慣と正しい言葉遣い、礼儀を身につけさせる。	服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底する。挨拶の励行、敬語の徹底や遅刻の減少に努める。(遅刻については、1学期まで5回以内、年間15回以内を目標とする。)	A		服装・頭髪はおおむね良好である。違反生徒についても、継続指導により改善している。挨拶・言葉遣いはかなりよくなった。遅刻の減少は遅刻指導などにより、ほぼ目標を達した。	頭髪、服装、遅刻の指導については、今後も同じ形で継続していく。	特に意見は出されなかった。
	一人ひとりの個性を尊重し、ともに支え合う態度を養う。	人権教育HRや学年集会など、さまざまな機会をとらえて自己を見つめさせ、「認め合う」姿勢を養う。	B	B	すぐに目に見える成果が出ることではないが、つらい立場にある生徒にうまく寄り添う姿も見られた。	さまざまな機会をとらえて、継続して取り組む。	
	家庭学習の習慣化をはかる。	家庭学習を定着させるため、ノートや課題の提出等について工夫させ、全生徒が家庭で学習する習慣づけを行う。	B		予習が習慣化できている生徒も少し増えているが、まだまだできていない生徒が多い。ノートや課題の提出も完全にできない生徒も多数いる。	各教科と連携し、予習方法や課題提出の徹底を指導する。	

第2学年	基本的な生活習慣を身につけさせ健康な学校生活を送らせる。	・朝食の摂取の奨励、5分前行動を励行する。 ・遅刻・早退者の人数を学期ごとに学年生徒数の5%以内を目指す。 ・学期ごとの保健室来室生徒を前年比20%減を目指す。	B	B	・遅刻指導により、遅刻数に一定の成果があったように思える。 ・一向に改善が見られない遅刻常習者が存在する。 ・保健室利用者は目標どおりの減少を達成した。	・遅刻常習者には、遅刻指導は効かないので、1ヶ月ぐらいの単位での状況把握し、面談や保護者との連携により生活の改善が必要に思える。	特に意見は出されなかった。
	規範意識の向上をはかる。	集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。学期に1回学年集会を開く。特別指導にかかる生徒を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。	B		・指導に関して、一貫性がない印象を生徒に与える事があった。 ・特別指導にかかる生徒は目標人数内を達成した。	・職員全体の報告、連絡、相談を密にし、一体感を高める。	
	長欠・休学をできる限り防止する。また長欠・休学生徒には的確な指導を行う。	欠席・遅刻が度重なる生徒には家庭との連携を密にして迅速な初期対応を行う。長欠・休学生徒の3割減を目指す。	B		・長欠・休学生徒の解消について目標を達成した。 ・初期の適切な対応により、長欠、休学生徒の発生をある程度防止できた。	・引き続き迅速な初期対応を行っていく。 ・できれば最新の対策事例の研修を行えばと思う。	
	学習習慣の定着を目指す。	教科との連携をはかり、適切な課題を課し、授業だけでなく、家庭学習の充実を図らせる。各生徒の家庭学習の時間を前年比50%増を目指す。	C		・宿題や課題の未提出者を許さない「しつこい」取り組みが出来ていないように思える。 ・休業あけの課題テストの点数が驚くほど低い。 ・家庭学習の実態を把握し切れていないのではないか。	・残ってでも提出させる取り組みが必要なように思える。 ・課題テストの意義を高める工夫が必要である。 ・家庭学習の実態調査をする必要がある。	
第3学年	2年間で身に付いた生活習慣を今後社会人として続けていく大切さを考えさせ、定着を図る。	服装頭髪等基本的常識的生活習慣が、1年間、日常的に進むよう指導をする。遅刻の回数を学期5回までにし、それ以上の者は個別指導し、遅刻の減少に努める。	B	B	服装頭髪等の指導については、概ね校則を大きく逸脱するような生徒はいなかったが、頭髪の指導について、3年時になって、統一して確認する機会が無くなったため、若干違反者が増えたように思われる。遅刻指導については、学年全体としては、2年時と大差が無いが、毎学期同じ生徒の指導になることが多かった。	3年であるため、来年度入学生もしくは、在学生在に今年度の多くの例を伝え、学校全体として向上するよう努力する。	進路達成や卒業について感謝していただいた。
	一個人、一社会人としての自己責任の大切さを感じさせ、自分の将来設計について真剣に考えさせる。	自分の進路に前向きに取り組ませ、100%の生徒が納得できる進路決定になるよう、指導、アドバイスを行う。100%の生徒が、高円高校生であった喜びと、誇りを感じとらせる指導を心がける。	B		3年生全員、自分の事を真剣に考え進路に対して取り組んだ様子は伺える。ただ早いうちに進路を決め、楽に学校生活を進める流れがあるように思われ、最後まで自分の力を出し切らない生徒が多く見られたように思われるので、それを指導し切れなかったのが、悔いが残る。	3年であるため、来年度入学生や在学生在に今年度の多くの例を伝え、学校全体として向上するよう努力する。	